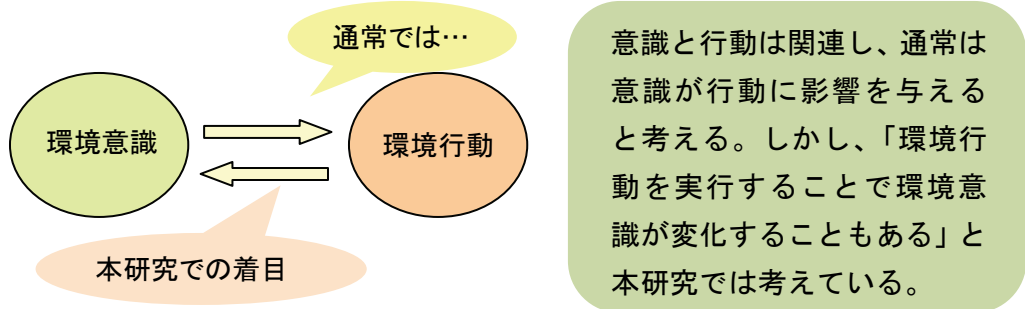




### 1. 研究目的

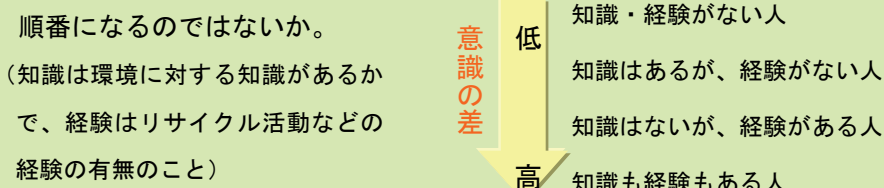
地球環境問題は近年重要な課題であり、京都議定書など国際的な取り組みもされている。社会は徐々に環境に負荷をかけない様な構造に変化しつつあるが、その速度は環境破壊の速度に追いついていない状況である。そのため、国の政策や企業の取り組みだけではなく、一人一人の心がけや行動が重要であるとする。しかし、環境問題に関する知識や、環境行動をしなければならないという意識があっても、実際の環境行動に至らない居住者は少なくない。そのため、環境意識を環境行動に結びつけるための対策を考えることは急務と考える。



そこで本研究では、居住地の市町村における家庭ごみの分別方法の違いが、住民の環境意識や環境行動に与える影響とその効果について調査した。

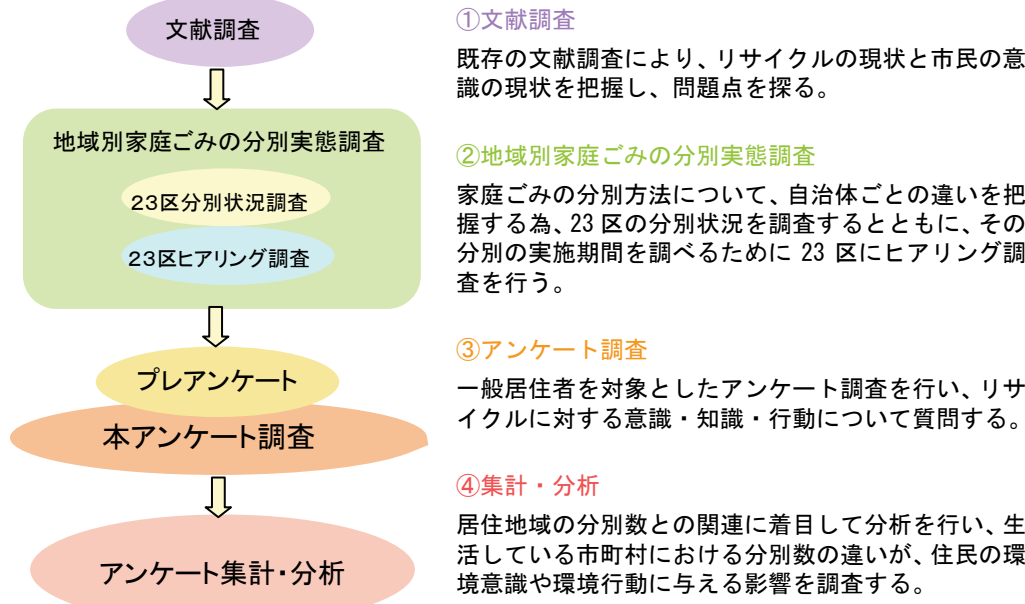
環境意識や環境行動に変化をもたらす要因にどのようなものがあるのかを探る目的で、下記の仮説を立て、調査結果よりこれらの検証も行う。

- 1) リサイクルの意識が高い人 ⇨ 環境問題全体に対する意識も高い。
- 2) 分別が細かい地域に居住する人 ⇨ 外出先でも細かい分別が出来る。
- 3) 自治体の情報を入手している人 ⇨ 環境知識・意識がある。
- 4) 環境に対する意識の差が右図の順番になるのではないかと。



### 2. 研究方法

調査および分析を進めるにあたり、以下の段階を踏んで進めた。



### 3. 居住地別家庭ごみの分別の実態調査

ごみ分別の状況を把握するため、東京 23 区を対象に、各区の燃えるごみ、燃えないごみの内容と資源ごみの種類と回収方法を調査した。その結果、燃えるごみと燃えないごみは差が見られないが、資源回収は、区による差が大きい結果となった。東京 23 区で実施している資源回収（集積所）は、5～10 種類で、平均 6.3 種類であった。調査した結果から資源回収の種類に着目したものを表 1 に示す。

また分別方法が住民に定着し、環境意識が変化する時間を考慮し、分別方法の実施時期も調査した。さらに分別の種類変更の影響や効果、リサイクルを推進する為に取り組んでいる政策、ごみ収集の問題点、現在の収集方法にした理由等についても調査した。その結果、住民に対するリサイクルを推進する指導や活動内容は、広報誌、パンフレット、HP 等で呼びかけていた。集積所回収の種類を増やさない理由は、コストによる問題が大きいこともわかった。ただしペットボトルに関しては、住民からの集積所回収の要望が多いことも分かった。

表 1 23 区資源回収実施一覧

区	新聞	雑誌	段ボール	外箱	びん	缶	ペットボトル	紙パック	食品トレイ	プラスチック容器	乾電池	ポタン電池	廃食油	古布	その他
足立区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
荒川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
板橋区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江戸川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大田区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高飾区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江東区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
品川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
渋谷区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新宿区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杉並区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
墨田区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
世田谷区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
台東区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中央区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
千代田区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
豊島区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中野区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
練馬区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文京区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
港区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
目黒区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2005 年 6 月現在

### 4. 一般居住者を対象としたアンケート調査概要

**対象：**大学生の子供を持つ親で、家庭の中でごみと資源の分別を主に行う人  
**質問内容**

- ・リサイクルに関する知識・意識・行動について
- ・リサイクル以外の環境に関する知識・意識・行動について
- ・自治体のリサイクルの政策に対しての、情報収集の方法や内容について

### 5. アンケート結果

■居住地の分別数と環境意識  
アンケート回答者の居住地の分別数を基準に A～D の 4 種類に分類した。

- A：10 種類以上（分別多い）
- B：8～9 種類（分別やや多い）
- C：6～7 種類（分別やや少ない）
- D：5 種類以下（分別少ない）

グループ分けによる該当人数を図 1 に示す。

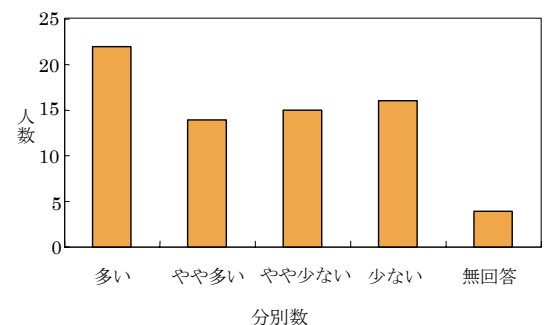


図 1 回答者の居住地区における集積所回収の数

グループによる回答の違いは少ないが、いくつかの質問では違いが見られる。例として、普段『資源ごみの分別』と、『電気節約』のどちらに気を遣っているかに関する回答結果を図 2 に示す。

分別数の多い地域に居住している人は「資源ごみの分別」に、分別数の少ない地域では「電気節約」に気を遣っている人が多い。

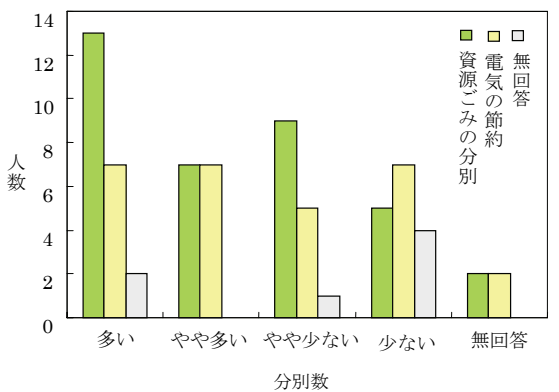


図 2 分別数と日常で気をつけている環境行動

さらに「資源ごみの分別」と「電気節約」のどちらに気を遣うかと、他の質問とのクロス集計を行った。結果の一部を以下に示す。

#### a) リサイクルへの関心

リサイクルに関心があるかという質問に対する回答を図 3、4 に示す。

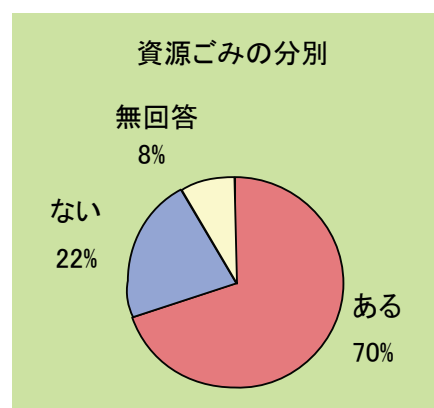


図 3 分別に気を遣っている人のリサイクルの関心

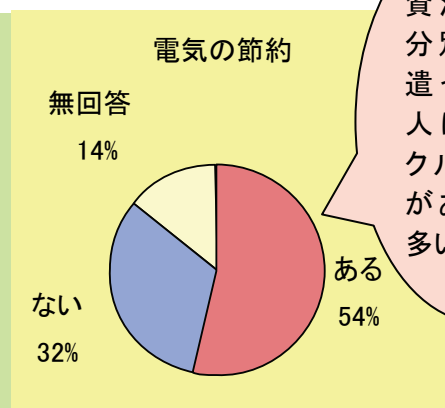


図 4 節約に気を遣っている人のリサイクルの関心

資源ゴミの分別に気を遣っている人はリサイクルに関心がある人が多い。

b)リサイクルに関心を持ったきっかけ

リサイクルに関心があるとした人の関心を持ったきっかけを図5に示す。



資源ごみの分別に気を遣っている人は『環境問題に関心をもった』ことがきっかけとして考えられる回答が多い。電気の節約に気を遣っている人は『生活環境の影響』がきっかけとして考えられる回答が多い。

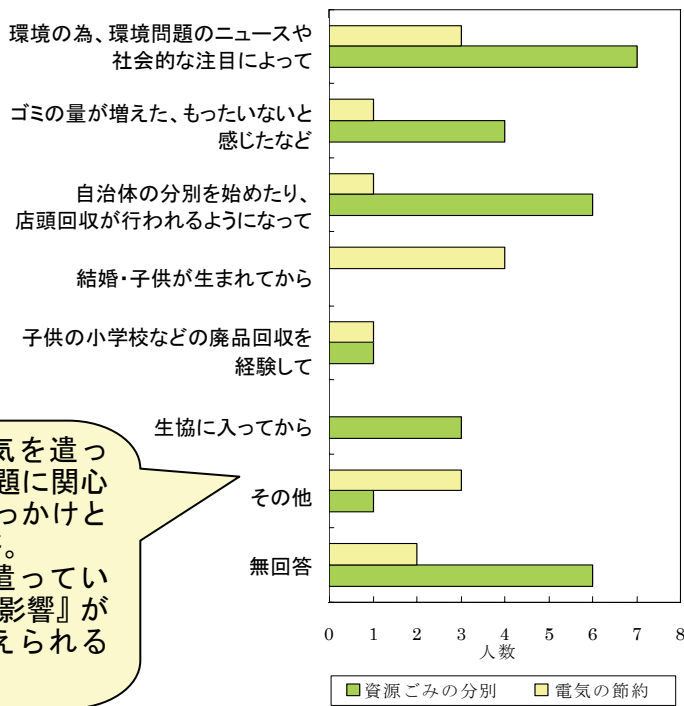


図5 リサイクルに関心を持ったきっかけ

c)再生素材の利用

「多少金額が高くても再生素材を利用しますか」という質問に対する回答を図6、7に示す。

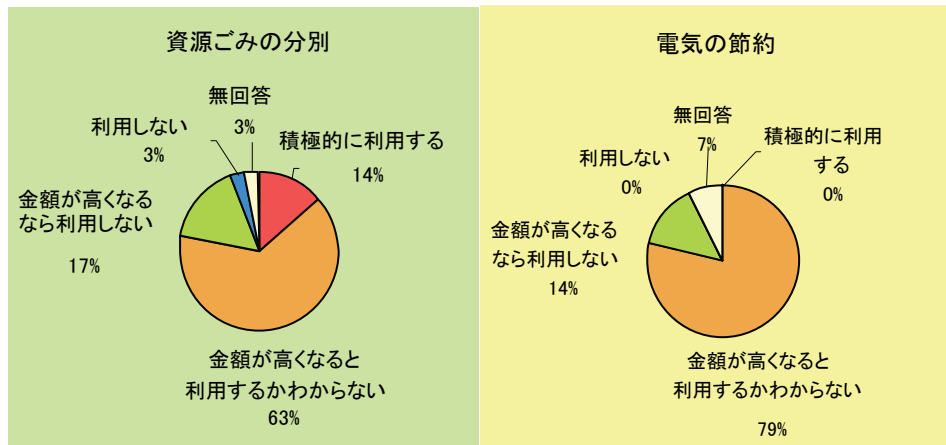


図6 分別に気を遣っている人

図7 節約に気を遣っている人

再生素材を利用するか  
資源ごみの分別に気を遣っている人は「積極的に利用する」と回答している人がいるが、電気の節約に気を遣っている人は「積極的に利用する」と回答した人はいなかった。

これらの結果からわかるのは、下記の点である。

日常で気を遣っていること

「資源ごみの分別」 ⇨ 環境に対する関心や意識がやや高い

「電気の節約」 ⇨ 環境に対する関心や意識がやや低い

資源ごみの分別に気を遣っている人は、居住地域の資源ごみの分別数が10種類以上の人が多く、リサイクルに関心を持った理由は、「市や近くのスーパーがリサイクルを始めたから」といったような回答が多い。よって分別数が増えることで、環境意識の変化が生じる可能性はあると考えられる。

■仮説に対する考察および分析

研究目的で挙げた4つの仮説に対する分析結果の一部を以下に示す。

仮説1) リサイクルの意識が高い人は、環境問題全体に対する意識も高い

「環境問題にどの程度関心がありますか」という質問に対し7段階の自己評価で回答を得た。リサイクルの意識に関する7段階3問(21段階評価)の質問と「環境問題にどの程度関心を持っているか」の回答との関係を図8に示す。数値が大きい方が意識・関心が高いことを表している。

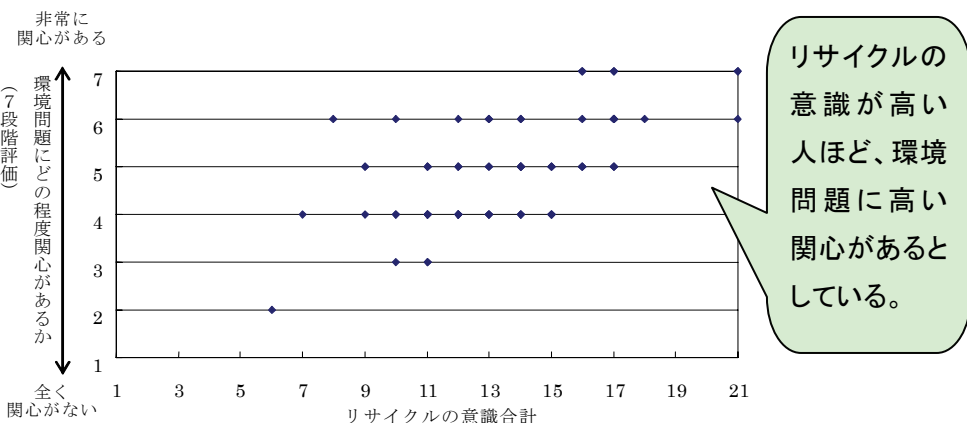


図8 リサイクルの意識と環境意識

リサイクルの意識が高い人ほど、環境問題に高い関心があるとされている。

仮説2) 分別が細かい地域に居住する人は、外出先でも細かい分別ができる

「外出先でゴミを捨てる場合、どの程度分別していますか」という質問に対し、1(全く分別しない)~7(完璧に分別している)の自己評価で回答を得た。この回答を居住地域の分別数ごとに集計したものを図9に示す。

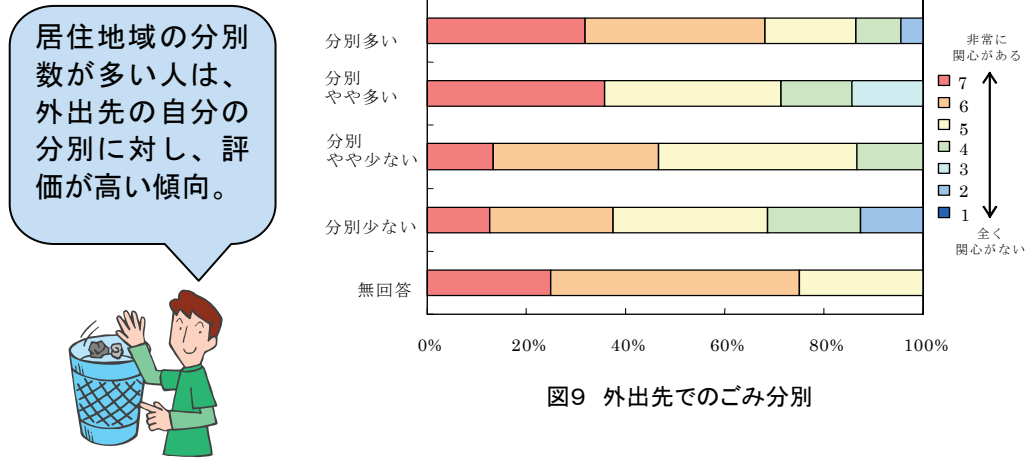


図9 外出先でのゴミ分別

居住地域の分別数が多い人は、外出先の自分の分別に対し、評価が高い傾向。



仮説3) 自治体の情報入手しているかどうかで、環境の知識・意識・行動に差が出る

自治体の情報入手しているかどうかと、環境意識と行動の関係について、分析した結果を以下に示す。

リサイクルの意識と行動に関する問題7問について7段階で自己評価を得た。(数値が大きい方が意識が高い、または行動している。)その回答の合計を2つに分け、A:34以上、B:33以下として比較した。A・Bそれぞれの「居住する市町村のゴミやリサイクルの政策を知っているか」という質問の回答結果を図10に示す。

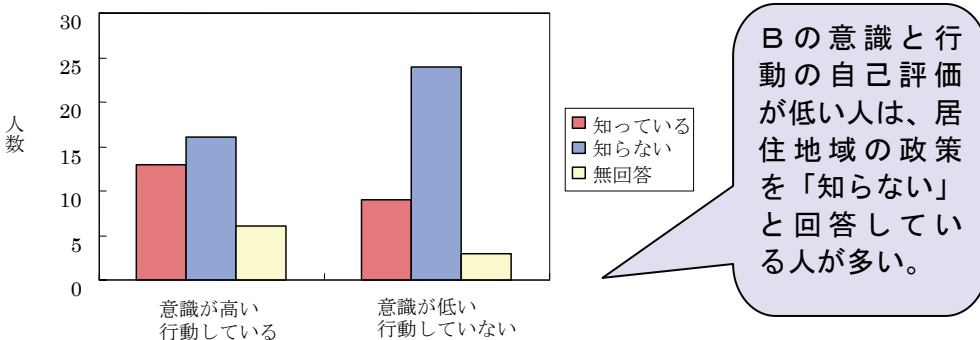


図10 自治体の情報入手とリサイクルの意識との関係

Bの意識と行動の自己評価が低い人は、居住地域の政策を「知らない」と回答している人が多い。

仮説4) 環境に対する意識の差が下の順番になるのではないか

環境問題に対するO×問題の正解数で『知識あり』、『知識なし』に回答者を分けた。また、経験としてリサイクル活動に参加したことがあるかを『経験あり』『経験なし』に分けた。これらをクロス集計するため、さらにリサイクルの意識に関する質問の合計の値で、A(意識が高い)、B(意識が低い)の2つに分けた。知識・経験の有無の組み合わせごとに比較した結果を図11に示す。

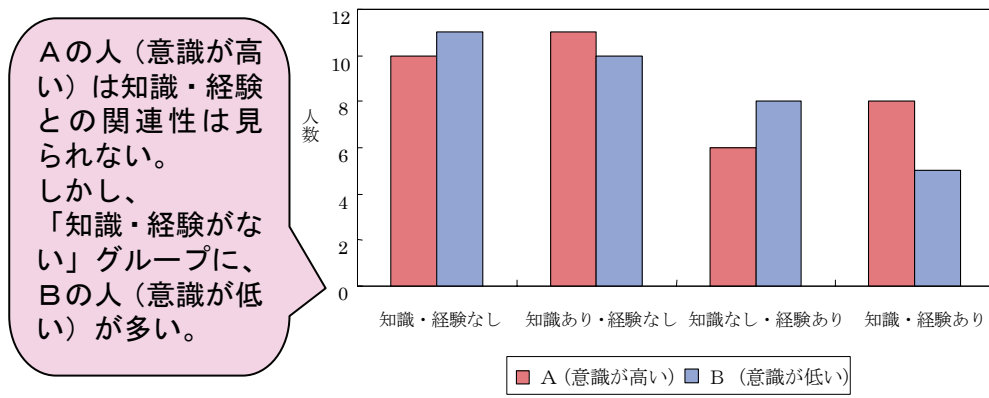


図11 リサイクル意識の差

Aの人(意識が高い)は知識・経験との関連性は見られない。しかし、「知識・経験がない」グループに、Bの人(意識が低い)が多い。

6. まとめ

本研究では、居住地域と環境に対する意識や行動についての関連性を調査した。アンケートの結果より、居住地域の分別数が多い人の方が環境意識が高く、環境行動を実行している傾向がややみられることがわかった。

この結果は、分別数のみの影響ではなく、分別を細かくしている自治体は環境問題への取り組みも活発に行っていることも要因の一つと考える。行政が環境に対する取り組みを積極的に行うことで、市民への環境意識や環境行動にも影響を与えることは十分に考えられる。このように、自治体の積極的な政策も重要で、そこから市民一人一人に伝われば大きな変化をもたらすことが出来ると思う。